

1/5/1 (Item 1 from file: 351)
DIALOG(R)File 351:Derwent WPI
(c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

012221885 **Image available**

WPI Acc No: 1999-027991/ 199903

XRPX Acc No: N99-021406

Joint component for connecting clip to card holder - has column type
recess in upper part to which column shaped portion material of card
holder is removably set and spherical recess in lower part to which
spherical component of clip is removably set

Patent Assignee: SANEI PLASTIC KK (SANE-N)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10290732	A	19981104	JP 97116436	A	19970418	199903 B
JP 3019203	B2	20000313	JP 97116436	A	19970418	200017

Priority Applications (No Type Date): JP 97116436 A 19970418

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 10290732	A		6	A47F-005/00	
JP 3019203	B2		6	A47F-005/00	Previous Publ. patent JP 10290732

Abstract (Basic): JP 10290732 A

The component (6) includes a block body (7) which is made of resin.
A column type recess (8) is formed in the upper part of the block body.
A spherical recess (4) is formed in the lower part of the block body.

The column shaped portion material (17) of a card holder (1) is
removably set to the column type recess. The spherical component (2) of
a clip (18) is removably set to the spherical recess.

ADVANTAGE - Display tools can be coupled to display side even if
there is column shaped portion material. Prevents column shaped portion
material from coming off to axial direction.

Dwg.2/5

Title Terms: JOINT; COMPONENT; CONNECT; CLIP; CARD; HOLD; COLUMN; TYPE;
RECESS; UPPER; PART; COLUMN; SHAPE; PORTION; MATERIAL; CARD; HOLD; REMOVE
; SET; SPHERE; RECESS; LOWER; PART; SPHERE; COMPONENT; CLIP; REMOVE; SET
Derwent Class: P27; P85
International Patent Class (Main): A47F-005/00
International Patent Class (Additional): G09F-001/10
File Segment: EngPI

1/5/2 (Item 1 from file: 347)
DIALOG(R)File 347:JAPIO
(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

06007632 **Image available**

JOINT MEMBER

PUB. NO.: 10-290732 A]
PUBLISHED: November 04, 1998 (19981104)
INVENTOR(s): HIRAKAWA IWAO
APPLICANT(s): SANEI PLAST KK [000000] (A Japanese Company or Corporation),
JP (Japan)
APPL. NO.: 09-116436 [JP 97116436]

FILED: April 18, 1997 (19970418)
INTL CLASS: [6] A47F-005/00
JAPIO CLASS: 30.9 (MISCELLANEOUS GOODS -- Other); 14.2 (ORGANIC CHEMISTRY
-- High Polymer Molecular Compounds)

ABSTRACT

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a joint member capable of providing the selection with the degree of freedom without need of matching one of a display tool and a display with the other specified one even when one of them is specified.

SOLUTION: This joint member 6 is composed of a block body 7 made of resin, a columnar recessed part 8 formed on the block body 7 and a spherical recessed part formed on the block body 7. Then, a columnar member 17 connected to one of the display tool and the display is freely detachably fitted to the columnar recessed part 8 and a spherical member 2 connected to the other one of the display tool and the display is freely detachably fitted to the spherical recessed part 4.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-290732

(43)公開日 平成10年(1998)11月4日

(51)Int.Cl.⁹
A 4 7 F 5/00

識別記号

F I
A 4 7 F 5/00

E

審査請求 有 請求項の数 2 F D (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平9-116436

(22)出願日 平成9年(1997)4月18日

(71)出願人 596099044

株式会社山栄プラスチック

東京都江戸川区松江4-5-4

(72)発明者 平川 岩男

東京都江戸川区松江4-5-4 株式会社
山栄プラスチック内

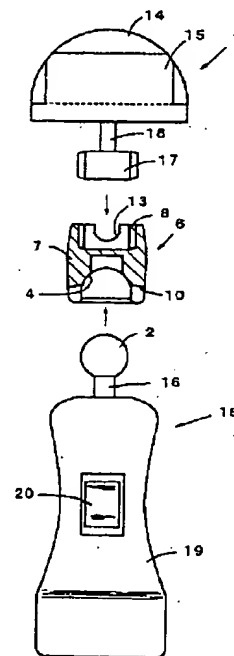
(74)代理人 弁理士 嶋 宣之

(54)【発明の名称】 ジョイント部材

(57)【要約】

【課題】 表示具あるいはディスプレイのいずれか一方が特定されても、他方をそれに合わせる必要がなく、その選択に自由度を持たせることのできるジョイント部材を提供することである。

【解決手段】 ジョイント部材6は、樹脂製のブロック体7と、ブロック体7に形成した円柱形凹部8と、ブロック体7に形成した球形凹部とからなる。そして、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方に連結させた円柱形部材17を、上記円柱形凹部8に取り外し自在にはめ込むとともに、表示具あるいはディスプレイのいずれか他方に連結させた球形部材2を、上記球形凹部4に取り外し自在にはめ込む構成にしている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 カード類を表示する表示具と、棚や台等のディスプレイとを、直接的あるいは間接的に連結するジョイント部材において、樹脂製のブロック体と、ブロック体に形成した円柱形凹部と、ブロック体に形成した球形凹部とを備え、上記円柱形凹部は、その円柱形の側面円の直径を含む部分までを凹部として形成し、ブロック体の表面にはほぼ長方形に開口するとともに、その曲率を、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方に直接的あるいは間接的に連結させた円柱形部材の曲率とほぼ同じにして、この円柱形凹部に円柱形部材を取り外し自在にはめ込む構成とし、また、上記球形凹部は、その球形の直径を含む部分までを凹部として形成し、ブロック体の表面に円形に開口するとともに、その曲率を、表示具あるいはディスプレイのいずれか他方に直接的あるいは間接的に連結させた球形部材の曲率とほぼ同じにして、この球形凹部に球形部材を取り外し自在にはめ込む構成にしたことを特徴とするジョイント部材。

【請求項2】 円柱形部材の長さを円柱形凹部の長さよりも短くして、この円柱形凹部に、複数の円柱形部材を並べてはめ込む構成にしたことを特徴とする請求項1記載のジョイント部材。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、カード類を表示する表示具と、棚や台等のディスプレイとを、直接的あるいは間接的に連結するジョイント部材に関する。

【0002】

【従来の技術】店頭等においては、プライスカードや商品説明カードを表示する表示具を、棚や台等のディスプレイに固定することが通常に行われている。例えば、図5に示すように、樹脂製のカード差し1に球形部材2を設けている。また、台3には、貼着材5aを介して樹脂製のプレート5を設けるが、このプレート5に球形凹部4を設け、その曲率を上記球形部材2の曲率とほぼ同じにしている。そして、カード差し1は、その球形部材2をプレート5の球形凹部4に取り外し自在にはめ込むことで、台3に連結されることになる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記従来例のように、表示具たるカード差し1側に球形部材2がある場合、ディスプレイたる台3側には、その球形部材2に対応した球形凹部4がないと、この表示具をディスプレイに固定することができない。このように、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方が特定されると、他方をそれに合わせなければならず、選択の自由度がなくなってしまう。この発明の目的は、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方が特定されても、他方をそれに合わせる必要がなく、その選択に自由度を持たせることのできるジョイント部材を提供することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明は、カード類を表示する表示具と、棚や台等のディスプレイとを、直接的あるいは間接的に連結するジョイント部材を前提とする。そして、第1の発明は、樹脂製のブロック体と、ブロック体に形成した円柱形凹部と、ブロック体に形成した球形凹部とを備え、上記円柱形凹部は、その円柱形の側面円の直径を含む部分までを凹部として形成し、ブロック体の表面にはほぼ長方形に開口するとともに、その曲率を、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方に直接的あるいは間接的に連結させた円柱形部材の曲率とほぼ同じにして、この円柱形凹部に円柱形部材を取り外し自在にはめ込む構成としている。

【0005】また、上記球形凹部は、その球形の直径を含む部分までを凹部として形成し、ブロック体の表面に円形に開口するとともに、その曲率を、表示具あるいはディスプレイのいずれか他方に直接的あるいは間接的に連結させた球形部材の曲率とほぼ同じにして、この球形凹部に球形部材を取り外し自在にはめ込む構成にした点に特徴を有する。第2の発明は、第1の発明において、円柱形部材の長さを円柱形凹部の長さよりも短くして、この円柱形凹部に、複数の円柱形部材を並べてはめ込む構成にした点に特徴を有する。

【0006】

【発明の実施の形態】図1に、この発明のジョイント部材の一実施例を示す。図1(b)に示すように、ジョイント部材6は、円柱形状をした樹脂製のブロック体7からなり、その両端をややテーパー状に成形している。そして、このブロック体7の一端に球形凹部4を形成し、また、他端に円柱形凹部8を形成している。

【0007】球形凹部4は、その球形の直径Rを含む部分までを凹部としてブロック体1に形成している。したがって、ブロック体7の一端の表面には、図1(a)に示すように、円形の開口9が形成されることになる。さらに、ブロック体7の一端に形成される壁部23には、一対の溝10を形成している。そして、これら溝10の一端を球形凹部4側に、かつ、他端をブロック体7の表面側に開口させている。なお、この球形凹部4の底に窪み11を形成しているが、これは型成形の際に歪みを防止するためのものである。

【0008】一方、円柱形凹部8は、その長さをしとし、円柱形の側面円の直径rを含む部分までを凹部としてブロック体7に形成している。したがって、ブロック体7の他端の表面には、図1(c)に示すように、長方形の開口12が形成されることになる。ただし、ここでは、円柱形凹部8の両端を、やや縮径させた形状にしている。したがって、この円柱形凹部8が形成する開口12も、完全な長方形ではなく、その両端がやや縮径した形状をしている。これにより、図1(c)からも分かるが、壁部の24の肉厚Hを確保することができ、ジョイ

ント部材6としての強度を維持することができる。さらに、ブロック体7の他端に形成される壁部24には、一対の溝13を形成している。そして、これら溝13の一端を円柱形凹部8の中央付近に、かつ、他端をブロック体7の表面に開口させている。

【0009】図2に、このジョイント部材6を使用した組み合わせの一例を示す。樹脂製のカード差し1は、対向させた二枚の支持板14、15からなり、これら支持板14、15間に図示しないカード類を挟み込むものである。そして、その下端には、支柱16を介して円柱形部材17を一体的に設けている。この円柱形部材17は、その長さ及び曲率が、上記ジョイント部材6の円柱形凹部8の長さL及び曲率とほぼ同じとなっている。そして、この円柱形凹部8に合わせて、その両端をやや縮径させた形状となっている。

【0010】このようにした円柱形部材17を円柱形凹部8に押し当てると、この円柱形部材17が、ブロック体7の壁部24を弾性に抗して押し開き、円柱形凹部8に取り外し自在にはめ込まれる。このとき、前述のようにブロック体7の端部をややテーパー状にしているので、壁部分が弾性変形しやすく、簡単にはめ込めることができる。この状態では、円柱形部材17が円柱形凹部8内で回転することで、その回転方向に、カード差し1を首振り運動させることができる。しかも、前述のように溝13を形成したので、支柱16をいずれかの溝13内に位置させれば、カード差し1をジョイント部材6に対してほぼ直角にまで動かすことができる。なお、ここでは、カード差し1がこの発明でいう表示具を構成し、その表示具に直接的に円柱形部材17を連結させていることになる。

【0011】一方、樹脂製のクリップ18はクリップ板19と、このクリップ板19に重なって図に表れない同形のクリップ板と、これらクリップ板19を連結する板バネ20とからなり、この板バネ20の弾性力によって、クリップ板19を、図示しない棚や台等のディスプレイ側に掛け止めるようにしている。そして、いずれかのクリップ板19の下端には、支柱棒16を介して球形部材2を一体的に設けている。この球形部材2は、その曲率が、上記ジョイント部材6の球形凹部4の曲率とほぼ同じとなっている。

【0012】このようにした球形部材2を球形凹部4に押し当てると、この球形部材2が、ブロック体7の壁部23を弾性に抗して押し開き、球形凹部4に取り外し自在にはめ込まれる。このとき、前述のようにブロック体7の端部をややテーパー状にしているので、壁部分が弾性変形しやすく、簡単にはめ込めることができる。この状態では、球形部材2が球形凹部4内で回転することで、いずれの方向にも、クリップ18を首振り運動させることができる。しかも、前述のように溝10を形成したので、支柱棒16をいずれかの溝10内に位置させれば、

クリップ18をジョイント部材6に対してほぼ直角にまで動かすことができる。なお、ここでは、図示しない棚や台等がこの発明でいうディスプレイを構成し、そのディスプレイに、クリップ18を介して球形部材2を連結させていることになる。

【0013】図3に、このジョイント部材6を使用した組み合わせの別の例を示す。なお、以下でいうクリップ18、円柱形部材17、球形部材2については、前述したものと同一であり、その詳細な説明を省略する。この例では、円柱形部材17を備えたクリップ18aと、球形部材2を備えたクリップ18bとを、上記ジョイント部材6によって組み合わせている。ただし、クリップ18bの球形部材2を、直接にジョイント部材6の球形凹部4にはめ込むのではなく、別のジョイント部材21の球形凹部4にはめ込んでいる。

【0014】ジョイント部材21は、円柱形状をした樹脂製のブロック体22からなり、その一端に球形凹部4を形成し、他端に支柱16を介して球形部材2を一体的に設けたものである。そして、このジョイント部材21の球形部材2を、別の同形のジョイント部材21の球形凹部4に取り外し自在にはめ込んで、順次連結させている。そして、最端に位置するジョイント部材21の球形部材2を、上記ジョイント部材6の球形凹部4に取り外し自在にはめ込んでいる。一方、円柱形部材17を備えたクリップ18aは、その円柱形部材17を、上記ジョイント部材6の円柱形凹部8に取り外し自在にはめ込んでいる。

【0015】このようにした組み合わせでは、例えば、クリップ18bにカードを挟み込めば、このクリップ18bがこの発明でいう表示具を構成し、その表示具にジョイント部材21を介して間接的に球形部材2を連結させていることになる。この場合、クリップ18aを、図示しない棚や台等のディスプレイに掛け止めれば、ディスプレイに、クリップ18aを介して円柱形部材17を連結させていることになる。もちろん、これとは反対に、クリップ18aにカードを挟んで、クリップ18bをディスプレイ側に掛け止めてもかまわない。

【0016】図4に、このジョイント部材6を使用した組み合わせのさらに別の例を示す。この例では、円柱形部材の長さを、ジョイント部材6の円柱形凹部8の長さLよりも短くしている。そして、この円柱形凹部8に、複数の円柱形部材を並べてはめ込んだ点に特徴を有するものである。カード類を釣り下げたりするワイヤ25には、その端部に、円柱形部材26を取付けている。これら円柱形部材26は、その曲率が、上記ジョイント部材6に形成した円柱形凹部8の曲率とほぼ同じとなっている。ただし、その長さは円柱形凹部8の長さLのほぼ半分となっている。そして、円柱形凹部8に合わせて、これら円柱形部材26の両端をやや縮径させた形状となっている。

【0017】いずれか一方の円柱部材26を、円柱形凹部8に押し当てると、この円柱形部材26が、ブロック体7の壁部分24を弾性に抗して押し開き、円柱形凹部8に取り外し自在にはめ込まれる。このとき、円柱形凹部8には、その長さLの半分がまだ凹部として残っていることになる。そして、はめ込まれた円柱部材26の軸方向に並べるようにして、他方の円柱形部材26を円柱形凹部8に取り外し自在にはめ込むと、ちょうど円柱形凹部8に二つの円柱形部材26が位置することになる。

【0018】この状態では、円柱形部材26が円柱形凹部8内で回転することで、その回転方向に、ワイヤ25を首振り運動させることができる。しかも、二つの円柱部材26は相互に無関係に動かすことができるので、二種類のカードを自由に表示することが可能となる。なお、ここでは、これらワイヤ25がこの発明でいう表示具を構成し、その表示具に直接的に円柱形部材26を連結させていることになる。

【0019】一方、円形のプレート5には、その裏面に貼着材5aを設け、図示しない棚や台等のディスプレイに貼りつけられるようになっている。このプレート5の中心には、支柱16を介して球形部材2を一体的に設けている。そして、この球形部材2を、ジョイント部材6の球形凹部4に取り外し自在にはめ込むことは、上記の例と同じである。なお、ここでは、図示しない棚や台等がこの発明でいうディスプレイを構成し、そのディスプレイに、プレート5を介して球形部材2を連結させていることになる。

【0020】以上述べた実施例のジョイント部材6を使用すれば、例えば、表示具側に球形部材2があり、ディスプレイ側に、その球形部材2に対応した球形凹部4ではなく、円柱形部材17があったとしても、この表示具をディスプレイ側に連結することができる。このように、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方が特定されたとしても、他方をそれに合わせる必要がなく、その選択に自由度を持たせることができる。

【0021】しかも、球形凹部4が球形部材2を包み込むだけでなく、円柱形凹部8も円柱形部材17、26をしっかりと包みこむ格好となっている。したがって、円柱形部材17、26が、径方向にはもちろんのこと、軸方向にも抜けたりすることがない。そして、軸方向への抜けがなければ、図4に示した組み合わせのように、軸方向に並べた複数の円柱形部材26を、一つの円柱形凹部8にはめ込むことも可能となる。

【0022】なお、図2～4に示した組み合わせの例はほんの一例にすぎず、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方に直接的あるいは間接的に連結させた円柱形部材17、26と、いずれか他方に直接的あるいは間接的に連結させた球形部材2とを備えたものであれば、どのような組み合わせであってもかまわない。また、この実施例のジョイント部材6では、ブロック体7に、球形

凹部4と円柱形凹部8とをそれぞれ一つずつしか形成していない。ただし、その数を増やしてもかまわず、例えば、ブロック体7をもう少し大きくして、球形凹部4を一つだけ形成するのに対して、円柱形凹部8を二つ形成するなどしてもよい。

【0023】

【発明の効果】第1の発明のジョイント部材を使用すれば、例えば、表示具側に球形部材があり、ディスプレイ側に、その球形部材に対応した球形凹部ではなく、円柱形部材があったとしても、この表示具をディスプレイ側に連結することができる。このように、表示具あるいはディスプレイのいずれか一方が特定されたとしても、他方をそれに合わせる必要がなく、その選択に自由度を持たせることができる。

【0024】しかも、球形凹部が球形部材を包み込むだけでなく、円柱形凹部も円柱形部材をしっかりと包みこむ格好となっている。したがって、円柱形部材が径方向にはもちろんのこと、軸方向にも抜けたりすることがない。第2の発明によれば、第1の発明において、軸方向に並べた複数の円柱形部材を、一つの円柱形凹部にはめ込むことも可能となる。しかも、これら円柱部材は円柱形凹部内で相互に無関係に動かすことができるので、例えば、これら円柱形部材のそれぞれに表示具を連結しておけば、複数のカードを自由に表示するようなこともできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例のジョイント部材6を示し、(a)は一端側から見た図で、(b)は正面の断面図で、(c)は他端側から見た図である。

【図2】ジョイント部材6を使用した組み合わせの例である。

【図3】ジョイント部材6を使用した別の組み合わせの例である。

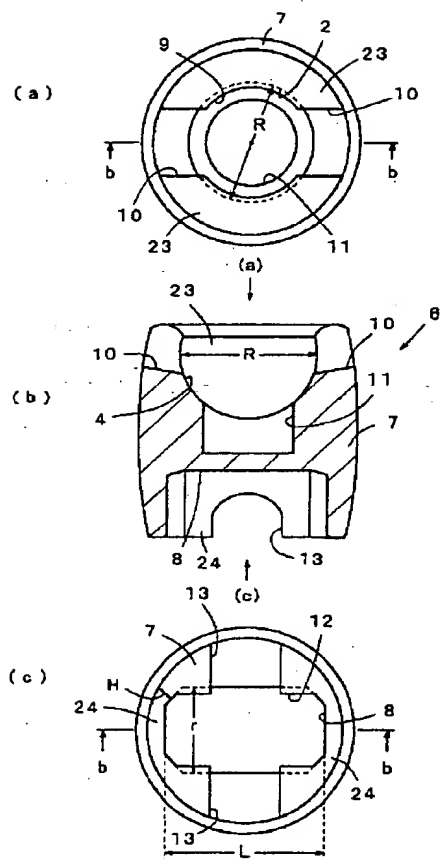
【図4】ジョイント部材6を使用したさらに別の組み合わせの例である。

【図5】従来例で表示具をディスプレイに連結させた状態を示す図である。

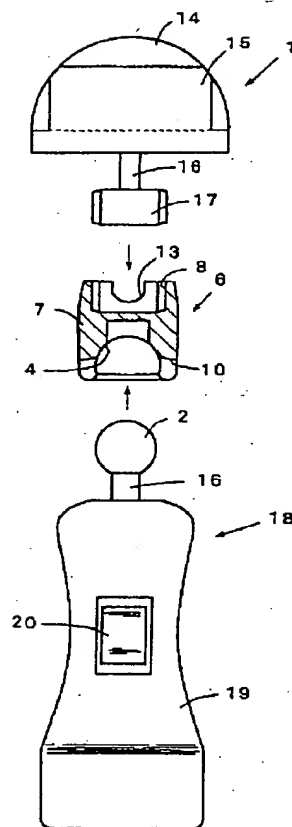
【符号の説明】

1	カード差し
2	球形部材
3	台
4	球形凹部
5	プレート
6	ジョイント部材
7	ブロック体
8	円柱形凹部
9、12	開口
17、26	円柱形部材
18	クリップ
21	ジョイント部材

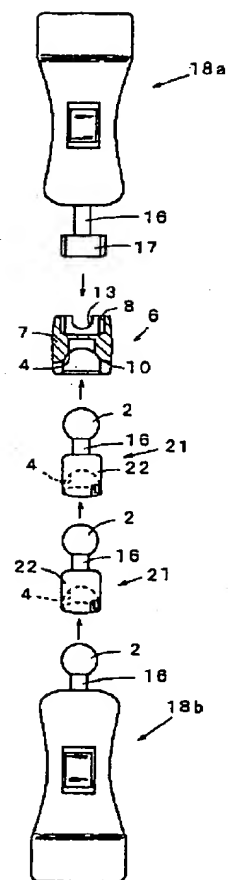
【図1】



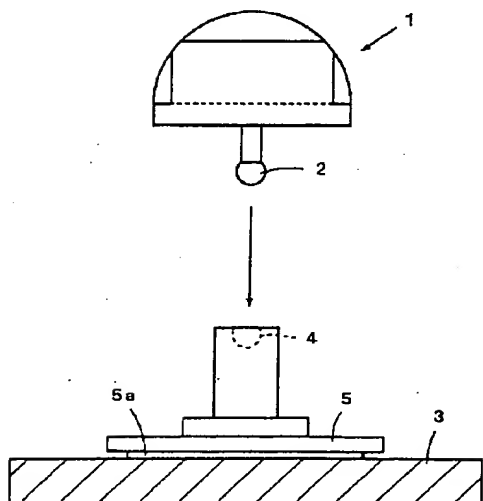
【図2】



【図3】



【図5】



(6)

特開平10-290732

【図4】

